

# トウキ 当 帰

学名 Angelica acutiloba KITAGAWA

科名 Umbelliferae (セリ科、シシウド属の多年草)

薬用部位 根茎。湯通しして乾燥させた根は特に婦人産後の鎮静、鎮痛、滋養強壮薬。  
葉は2012年より食薬区分から「非医」扱いとなり当帰葉の有効利用が注目されている。

薬効 解熱、鎮痛、血行障害など。

当帰は病人に与えると健康に帰る「当ニ帰ル」の意味です。

葉はセリの葉に似ており、セロリのような香りがある。8・9月頃、花茎を出して多数の白色微小な五弁花を開き、香気を放つ生薬です。

ヤマト・奈良県の生薬の歴史は414年、新羅から医師の金浪鎮漢紀武を招き、允恭天皇の病気を治療した記録があり、この時初めて中国の漢方薬が日本に伝来。611年には推古天皇が菟田野（宇陀郡大宇陀町）の野山で薬草や鹿の若角を求めた記録が日本書紀に記されています。

私の菩提寺・普賢院は和歌山県伊都郡高野町にあります。寺では毎年5月末日曜日、夏期祭が催され、その時「お接待」として「当帰葉の天婦羅をのせた熊笹を練り込んだうどん」が振る舞われます。

私はこの催しで「当帰」を知りました。そのお接待を東北震災後20年続けておられる中辻政親・僧名は寛親氏に「高野当帰」の話の伺いました。「当帰」は弘法大使・空海が唐から持ち帰られたとの伝記があります。

大師様は高野山開山時に住んでおられた寺は高野山法務を掌り、天歴947～957年の再興のまで歴代の山主が、この寺に住して中院御房と呼ばれていました。現在は龍光院に名を改めています。その寺の敷地に植わっていた当帰を中辻氏は高野山摩尼トンネルの上面の険しい山坂地を耕し、栽培拡大に向けとりくまれています。

その当帰のカブを分けて頂きオクソン屋上で育てています。当店では魚類の鉄板焼きにはジェノベーゼソースを添え、当帰葉のフリットを添えています。



## 第132回 オクソン音楽会メニュー

MENU

サーモンのオレンジ風味マリネ 菜園飾り

甘鯛の鉄板焼き 当帰葉フリット添え ジェノベーゼソース

ポルチーニ茸のポタージュスープ

有機野菜サラダ 温かいバーニャカウダーソースで

厳選・黒毛雌和牛ステーキ 高知深海の塩で

フランスパン

Dessert・キャラメルマロンムスのケーキ アンジェリカ添え

コーヒー & 紅茶

## アンジェリカ

当帰と同じ種類の植物・ハーブとしてアンジェリカがあります。古来よりヨーロッパでは神聖なハーブと重宝されていました。ラテン語で天使を表す *angelus* が語源であり、中世ヨーロッパでペストが流行した際、ある修道士の夢の中に天使が現れこの植物の根を薬に使うよう、お告げを受けた事が由来と言われています。食後酒にアンジェリカやジュニパー入の「ベネディクティン」を…